

【GIGA×指導の工夫・改善】 生徒一人一人の学びの状況を見取るための工夫

＜考察＞

これまでの教師による机間巡視を中心とする生徒の学習状況の見取りでは、適切なタイミングでのサポートが難しく、活動が停滞してしまう生徒が散見されます。そこで、授業の中で、Googleスプレッドシート、スライドなどを活用し、常に状況を端末で確認することで、必要なサポートを可能にする仕組づくりを行っています。

生徒の学習状況に対する適切なサポートを充実させるために、以下の点を強調している。

- ①生徒からの申告を可能にする。（スプレッドシートのプルダウンメニューを用いて、学習状況も伝えられる）
- ②教師側がシンキングサイクルに沿って授業を構築することで、どの段階でつまづいているのかを把握できる目を持てる。
- ③教師が課題を指摘するよりも、生徒の気づきを大切にする。そのために、ゴールから逆算し、何度も前の過程に戻ることを繰り返しながら、精度をあげさせる。

シンキングサイクルが、教科や単元を問わずあらゆる物事を学ぶ基本的なシステムという視点から授業を構築することで、「その単元でしか通用しないサポート」ではなく、いつでも、何度でも活用するサポートを繰り返すことが、生徒の学びの安定にもつながると考えます。

机間巡視を中心とした見取り

難

適切なタイミングでのサポート

スプレッドシートやスライドを活用した学習活動の展開

常に生徒一人一人の学習状況（進度・取組内容等）を把握し、適切なサポートを展開

即時の適切な関わりで学習を停滞させない

歴史⑫（P 174～175）

⑫知識を世界に求めて

	名前	自分の状況
1		まとめ中
2		情報収集中
3		めあて設定中
4		情報収集中
5		めあて設定中

生徒自身からの申告（学習状況・サポート要請）を把握し、適切なサポートを展開。この情報を元に生徒同士の学び合いも同時進行で発生する。

生徒が見通しを持てる授業の流れ